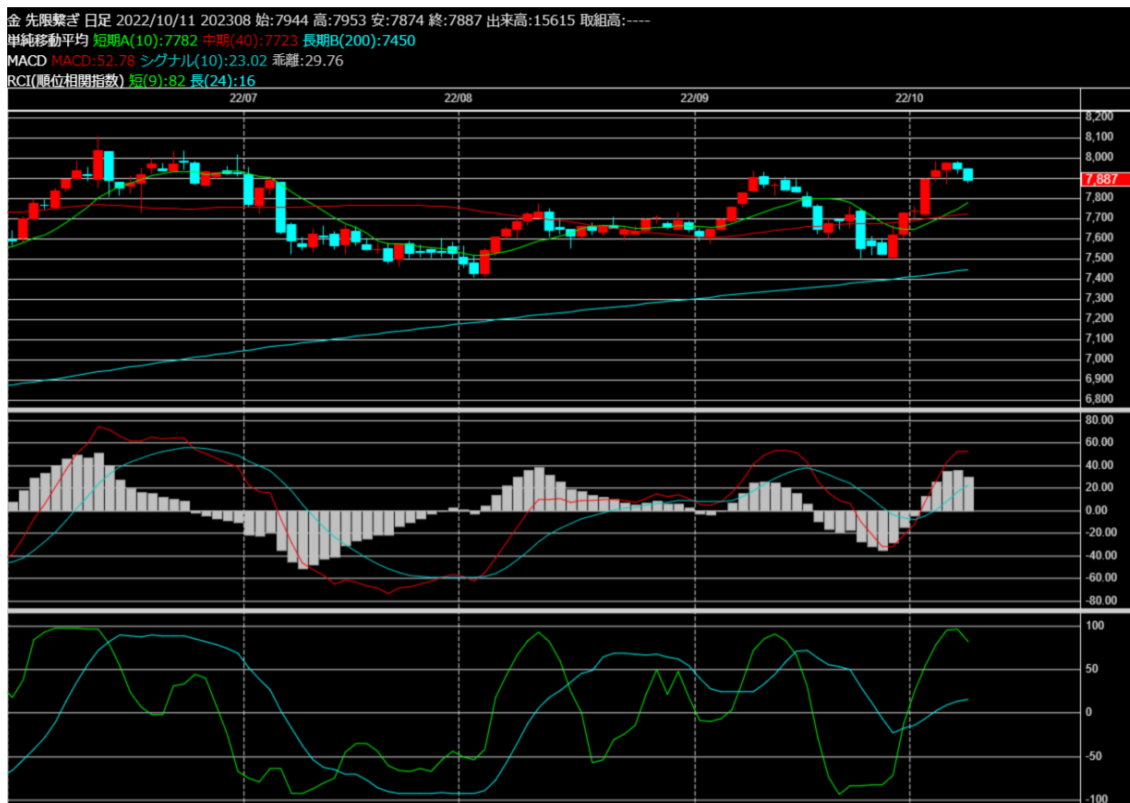


<金標準先物、雇用統計で11月も0.75%の利上げ示唆・・・>



(出所：オアシス)

注目された雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想を若干下回る 26.3 万人増となるなど前月の 31 万人増から低下したが、失業率は前月の 3.7%を下回る 3.5%と再び 50 年ぶりの低水準を示すなど、FRB のインフレ抑制の憶測が強まりを示している。

またウィリアムズ NY 連銀総裁は NY 州立大学バッファロー校が主催したイベントで講演を行い「現時点での重点はインフレ率を 2%に戻すことだ」と述べながら「政策金利はいずれ 4.5%付近に上昇する必要がある」と指摘するなど、11 月の FOMC では 0.75%の利上げを確実視する動きを見せている。

そのため一時的に金利低下から NY 金の買い戻しを受け金標準先物は一時 7984 円まで高値を試したが、OPEC+における 200 万バレルの減産と週末の雇用統計を受けて 7874 円まで下げている。特に今週は 12 日に 9 月の FOMC 議事録が公開されるがパウエル FRB 議長は「痛みを伴わずにそうする方法があれば良いが、それは無い」と発言するなどインフレ抑止に重きを置いており、金利上昇の動きが強まると見られ金価格は高値が抑えられた値動きで再度 7800 円割れを試す可能性は高まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD では **MACD** の上昇が止まり、**シグナル**は上昇するなど乖離が縮小している。RCI でも**短期**が下げだし**長期**は伸びを欠いており、**10 日移動平均線**が位置する 7697 円へ向けた値動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,491,000 円(2022 年 10 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 10 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>